

## 行事報告

## 広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(ミャンマー)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 極限環境対応グローバル接合部門  
特任准教授 勝又 美穂子

2015年10月25日~11月7日の期間で、本事業開始後初の実施国となるミャンマー・ヤンゴンでのカップリング・インターンシップ(CIS)を実施しました。連携大学はヤンゴン工科大学であり、実習受け入れ企業は J&M Steel Solutions でした。同社は JFE エンジニアリングとミャンマー建設省の合弁企業であり、ミャンマーにおける橋、歩道橋、高架、浮き桟橋、ジャケット建設などを手がけ、本年11月で丸2年という新しい会社です。

参加学生は阪大から工学研究科2名、ビルマ語専攻2名、ヤンゴン工科大学からは土木専攻2名、冶金専攻2名の合計8名でした。到着翌日から事前研修を開始し、両国の紹介、日系企業の基本理念、コミュニケーション、接合科学の基礎などの講義と実習を行いました。その後、J&M社での企業実習に参加し、事業紹介、工場での溶接、孔明、ガスカutting、マーキングなどの実習、社員インタビュー、浮き桟橋製造の現場見学など、企業からの熱心な指導の下、体験しました。社員へのインタビューでは設立間もない会社ならではの困難や挑戦、やりがいなどについて多くを聞くことができました。工場実習では、製造中の製品で実際の作業に参加し、各工程の流れ、そして各作業がいかに高い技術を要するかなど肌で感じました。

文化体験では、寺院見学、市場歩き、また希望者は僧院におけるミャンマー式瞑想体験を行うなど、ミャンマーの文化に触れる機会も多かったです。

最終報告に向け学生が取り組んだ課題は「コミュニケーションの問題とその解決策」でした。11月6日にヤンゴン工科大学で実施された最終報告会には、J&M社より庄司社長、明野総務部長、ヤンゴン工科大学からは Aye Myint 学長他30名程度の参加があり、盛大な報告会となりました。報告会では、J&Mの企業実習で発見した課題と対策、及び自らのチームにおける課題と対策から置き換えて企業への提案を発表するなど、多くの検討結果が紹介されました。学生の発表を受け、庄司社長からは「ミャンマーで活動する日系企業ということをお忘れず、ミャンマーに受け入れられる企業運営を、社員と丁寧にコミュニケーションをとりながら検討していきたい」とのコメントがありました。またヤンゴン工科大学からは「この活動を通し、大学間、大学と企業間でより活発な交流が行われることを期待する」とのコメントがありました。

急速に発展の波が押し寄せ町は活気に溢れる一方で、伝統的な文化が色濃く残るミャンマーにおいて、学生達は発展の渦中にある社会の様子を強く感じたものと思います。

シャイで温和で似た雰囲気を持つ両国の学生が、徐々に本音で協議するようになり、両国について深い議論を交わすことで互いの理解を深め、比例して関係も深まっていく様子が印象的でした。

